

いわき市の本社工場内に新工場を建設 ショットブラスト装置の 導入で塗装前処理工程が 40%以上も向上

スライド傾斜式車両運搬車の開発メーカーとして知られる株式会社花見台自動車(能條健二社長、福島県いわき市)は、このほど本社敷地内に新工場を建設、ショットブラスト装置の導入で、塗装前処理工程の生産性を40%以上も向上させている。

トラックの代替えサイクルがピークを迎えたことや、アベノミクスによって景気回復機運が高まった事などから、リーマンショック以来低迷していたトラック需要がここに来て一気に高まったことから、トラックの納期遅延が問題になっている。この主な原因が車体産業界の生産能力低下である。

主に受注生産の車体産業界は、これまでも大き

く変動するトラック需要に悩まされて来た業界であるが、2008年に発生したリーマンショックは過去最大とも言える打撃をくらい、工場閉鎖や大幅なリストラを余儀なくされた苦い経緯がある。

今回、トラック需要が回復に向かったのは3～4年前からであるが、この苦い経験のある車体産業界は、増産体制を躊躇した形跡がみられる。



本社敷地内に完成した新工場。側面にショットブラスト回収装置が見える。

工場増設や人員増加を図っても、次に需要が低下した時に同じような痛手を被ることを危惧した訳である。

ところが、東日本大震災の復興や、大津波に対する地方自治体の対応、2020年東京オリンピック決定などの要因が重なって、トラック需要は好調に推移、車体の生産が間に合わない状況が続いているのである。

この状況をいち早く察知した花見台自動車は、敷地の増設と同時に新工場建設を計画、このほど延べ床面積約800㎡、鉄筋平屋建て、天井走行クレーン3基を備えた新工場が完成した(投資額約2億5000万円)。また、この新工場はショットブラスト装置を導入、塗装前処理工程の生産性を40%以上も向上させるという。

同社はスライド傾斜式車両運搬車「セフテローダ」をはじめ各種トレーラも生産しているが、これまで人手により作業していた塗装の前処理を機械化することによって生産効率が向上するため、納期を大幅に短縮できる。



効率的に作業ができる天井走行クレーン。



主力商品のダンプローダ



単車と同等の全長で大量輸送を実現するダンプトレーラ

ショットブラスト装置は、直径 0.3mmほどの鉄球を荷台など塗装対象部位に吹き付けて錆びや汚れを効率よく完璧に落とし、ハイレベルの塗装を可能とするもので、吹き付ける小さな鉄球は回収して再利用する。

花見台自動車は、昭和 40 年 4 月に自動車修理钣金業として横浜市保土ヶ谷区花見台に有限会社花見台自動車を設立しているが、車体製作を開始したのは昭和 49 年からで、地元の建設機械リース会社から6トン車のセフテローダを受注している。その後は、開発型の特装・トレーラメーカーとして順調に業績を伸ばし、工場の移転、増設を推進、平成 2 年 12 月には広大な敷地を確保して本社工場を現在のいわき市好間工業団に建設している。

しかし、リーマンショックによる車体需要の後退に加えて、社運をかけて開発したコンテナ用トレーラが予想外の障害に阻まれて難航、経営破綻に

追い込まれる。

大幅なリストラなどを実施した同社は、能條社長の懸命な努力で短期間で危機を脱し、再建に成功する。そして、トラック需要の回復で、納期遅延を予想した同社は、敷地を拡大して車両置き場を確保する一方、新工場を建設して増産に踏み切ることを決意する。

同社は、これまで工場を新設した時などは、関係先へのお披露目を行なって来たが、今回の新工場建設では一切行っていない。納期遅延はユーザーなど関係先に多大な迷惑がかかるので、生産能力増強は車体メーカーの使命と考えているが、お披露目は「祝いごとにもなるので今回は控える。」という。現在では経営破綻による諸問題は全て解決しているのであるが、祝いごとを控え、物づくりに専念する姿勢は能條社長の見識を示すものとも言える。

(秋林路)

セフテローダ マークIII

車両総重量25tクラスで最大積載量13tクラスのスライドボディを実現させる『花見台軽量荷台技術』を採用する、セフテローダ マークIIIです。

Lightweight Technologies
HANAMIDAI
MAESTRO
PROJECT

■特別注文製作商品
安全に荷台をご使用戴く為に、お客様の搭載機械や仕様、運行状況を精査し、軽量化の技術をご提案し実現させるプロジェクトです。
※安全性を確保出来ない場合、強化し重量が増える為、最大積載量が減る場合やご注文をお断りする場合ご座います。予めご了承の程、お願い申し上げます。

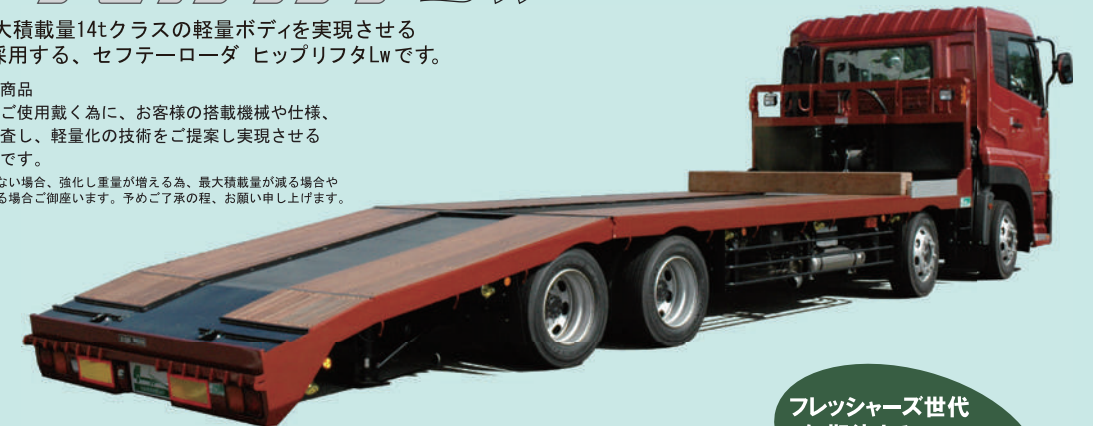


セフテローダ ヒップリフトLw

車両総重量25tクラスで最大積載量14tクラスの軽量ボディを実現させる『花見台軽量荷台技術』を採用する、セフテローダ ヒップリフトLwです。

Lightweight Technologies
HANAMIDAI
MAESTRO
PROJECT

■特別注文製作商品
安全に荷台をご使用戴く為に、お客様の搭載機械や仕様、運行状況を精査し、軽量化の技術をご提案し実現させるプロジェクトです。
※安全性を確保出来ない場合、強化し重量が増える為、最大積載量が減る場合やご注文をお断りする場合ご座います。予めご了承の程、お願い申し上げます。



フレッシュアズ世代
に期待する
ご要望に合わせた
機能をご提案

セフテローダ II

Lightweight Technologies
花見台軽量荷台技術

新・普通免許対応

2007年6月から施行後の普通免許の方が運転出来ます。
ダウンサイジングにより作業性、機動性などの効率が向上!!



花見台自動車 超低スロープセフテローダ

セフテローダ クライドIII

【特許取得済】
第4267152号



セフテローダ クライドIII

車両の安全な搭載に便利な荷台傾斜角度約2.5°という超低スロープを実現しました。バイクの積み下ろし等にも最適です。荷台後部が設置すれば任意の場所で積み下ろしが可能となり、積み下ろし場所、搭載車両等状況に応じて、超省スペース⇔超低スロープの間で自由に搭載位置を選択が出来、柔軟に対応が可能となります。



スライドボデーの新時代をリードする
株式会社 花見台自動車

本社・工場 〒970-1144 福島県いわき市好間工業団地23-1
TEL 0246-36-7211 FAX 0246-36-7215
横浜支社 〒236-0004 横浜市金沢区福浦 1-3-17
TEL 045-784-5020 FAX 045-785-1532

<http://www.hanamidai.co.jp/>